

一

次の各問いに答えよ。

問一 次の傍線部の漢字は正しい読みがなに、カタカナは正しい漢字に改めよ。(楷書ではつきり大きく書くこと。)

- ① 上司に意見をグシンする機会を得た。
- ② 業者に全ての業務をイタクする。
- ③ インフルエンザがモウイをふるう。
- ④ 親善大使としてハケンされる。
- ⑤ 彼は交響楽団員としてチェロをヒイている。
- ⑥ 日雇い労働者として一日の生活費をカセぐ。
- ⑦ 幾重にも重なって続く山々が美しい。
- ⑧ 希望者には、チケットが無料で頒布された。
- ⑨ 御尊父様の訃報に接し、哀悼の意を表します。
- ⑩ 故郷の商店街はすっかり廃れてしまっている。

問二 「師匠の言葉は()も忘れがたい。」という文の()にあてはまる四字熟語として最も適当なものを、

次のア～オのうちから一つ選び、記号で答えよ。

- ア 枝葉末節 イ 金科玉条 ウ 一挙一動 エ 巧言令色 オ 片言隻語

問三 次の短歌の説明として適当でないものを、あとのア～オから一つ選び、記号で答えよ。

わが庵は都のたつみしかぞすむ世をうぢ山と人はいふなり 喜撰法師

ア 「都のたつみ」とは、都の南西の方角のことである。

イ 「しかぞすむ」「しか」は、「このように」の意味である。

ウ 「うぢ山」の「うぢ」は、「憂し」と「宇治」の掛詞として使われている。

エ 「人はいふなり」は、「世間の人が言っていることだ」の意である。

オ この歌は、宇治に隠棲した作者の心境を詠んだものである。

問四 次の作品のうち、『斜陽』の作者と同じ作者の作品を、次のア～オのうちから一つ選び、記号で答えよ。

ア 友情 イ 雪国 ウ 山椒魚 エ 人間失格 オ 羅生門

問五 次の(1)・(2)の傍線部の文法的説明として正しいものを、それぞれあとのア～カのうちから一つ選び、記号で答えよ。

(1) 私に必要なのは、困難に負けない忍耐力だ。

(2) 客をもてなすために、その器を運ぼう。

ア 主語を示す

イ 名詞の一部

ウ 連体修飾語をつくる

エ 連体詞の一部

オ 体言と同じはたらきをする

カ 代名詞の一部。

二

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

※本ページにおける一部の文章については、著作権法の規程に基づき掲載しておりません。何卒ご理解賜りますようお願い申し上げます。

※本ページにおける一部の文章については、著作権法の規程に基づき掲載しておりません。何卒ご理解賜りますようお願い申し上げます。

※本ページにおける一部の文章については、著作権法の規程に基づき掲載しておりません。何卒ご理解賜りますようお願い申し上げます。

(酒井 邦嘉『脳とAI』)

(注1) 合原さん・羽生さん〓この文章の前に、筆者と合原一幸氏(数理工学)、羽生善治氏(棋士)との鼎談が掲載されている。

(注2) 玉方〓詰将棋で攻める方に対して守る方を言う。

問一 傍線部A「特に重要なものを知能の三要素とするなら、「判断・思考・創造」が挙げられる」とあるが、著者は、この三要素のA Iでの実装について、どのように説明しているか。最も適当なものを次のア～エのうちから一つ選び、記号で答えよ。

ア 判断・思考・創造共に、実装できる。

イ 判断は実装できるが、思考・創造は実装しにくい。

ウ 判断・思考は実装できるが、創造は実装しにくい。

エ 判断・思考・創造共に、実装しにくい。

問二 文中のIにあてはまる熟語を、次のア～オのうちから一つ選び、記号で答えよ。

ア 敬遠 イ 継続 ウ 破壊 エ 解放 オ 打破

問三 文中のIIとIVに入る表現として最も適当なものを、次のア～オのうちからそれぞれ選び、記号で答えよ。

ア 人間とA Iの能力を対比して、両者の共通点と相違点を明らかにすることである。

イ A Iが苦手とする説明を人間が背負い、人間が苦手とする創造をA Iが背負うことである。

ウ 人間とA Iとは共存が難しいものと捉え、人間とA Iそれぞれが歩むべき道を探っていくことである。

エ A Iを単なる「計算機」と見なして、現実世界のシミュレーションや未来予測を行わせることである。

オ A Iの計算結果を人間が積極的に取捨選択して、より賢い解決策を見つかったり、盲点を克服したりすることである。

問四 傍線部B「素早く収束するようなく狙うこともある」とあるが、このことを端的に示した部分を文中から抜き出せ。

問五 傍線部C「今後のAIの開発は、それが役立つべき目的を上回ってはならず、あくまで人間の知能に資するだけにとどめられるべきではなからうか」とあるが、筆者がこのように考える根拠となっているAIの役割を説明した一文を本文中から抜き出し、始めの五文字を書け。

問六

V

にあてはまる故事成語を、次のア～オのうちから一つ選び、記号で答えよ。

ア 蛇足

イ 杞憂

ウ 邯鄲の夢

エ 塞翁が馬

オ 羊頭狗肉

三

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。（現代仮名遣いにするなどの変更を行っている。）

※本ページにおける一部の文章については、著作権法の規程に基づき掲載しておりません。何卒ご理解賜りますようお願い申し上げます。

※本ページにおける一部の文章については、著作権法の規程に基づき掲載しておりません。何卒ご理解賜りますようお願い申し上げます。

※本ページにおける一部の文章については、著作権法の規程に基づき掲載しておりません。何卒ご理解賜りますようお願い申し上げます。

(注1) 岩¹登場人物(上田豊吉)の故郷の城下町のこと。
(注2) 断礎²こわれた礎石。

(国木田独歩『河霧』)

(注3) 車井＝滑車にかけ渡した綱をたぐって水を汲み上げるようにした井戸。

問一 傍線部A「言うべからざる」の意味として最も適当なものを、次のア～エのうちから選び、記号で答えよ。

ア 言うまでもない イ 言ってはいけない ウ 言わずにおれない エ 言いようのない

問二 傍線部B「かれは恐る恐るそこらをぶらつき始めた」について、次はこの一文に關しての先生と生徒との会話である。会話の最後にある生徒の発言として最も適当なものを、あとのア～エのうちから一つ選び、記号で答えよ。

先生 豊吉は二十年ぶりに懐かしい故郷に帰ってきて、その故郷を歩くのに、なぜ「恐る恐る」というような表現を用いているんだろうね。

生徒 それは、彼が都から落ちぶれて帰ってきたために、故郷の人と会うのをためらう気持ちがあつたからではないかと思ひます。

先生 そうだね。では、そのことが最もよく表現されているところはどこだろうか。

生徒 (

ア この部分の直前の段落では、「……できない」という表現が三カ所使われていて、この表現の中に、かれの「恐る恐る」の気持ちがよく表されていると思います。

イ この部分の二つ前の段落に、「沈静の気がすみずみまで行き渡っている」という表現があり、静まり返った故郷の不気味な雰囲気がかれの「恐る恐る」の背景にあると思います。

ウ この部分のあとの段落に、子供の頃の「壁の穴」の様子が描かれていて、子供のころのいたずらがどうなっているかという思いが、「恐る恐る」の心の奥に潜んでいると思います。

エ この部分の二つあとの段落に、「昔よりよほど淋しくなった」という表現があり、故郷が昔のままでいて欲しいというかれの本心が「恐る恐る」という気持ちにさせたのだと思います。

問三 本文中の I } III にあてはまる語を、次のア～オのうちからそれぞれ一つ選び、記号で答えよ。

- | | | | | | | | | | |
|---|-------|---|-------|---|-------|---|-------|---|-------|
| ア | うらうらと | イ | ぴかぴかと | ウ | さらさらと | エ | もくもくと | オ | じわじわと |
| カ | じりじりと | キ | ちかちかと | | | | | | |

問四 傍線部C「豊吉は夢の覚めたようにちよつと目を見張って、淋しい微笑を目元に浮かべた」とあるが、この時の豊吉の気持ちを説明したものとして最も適当なものを、次のア～エのうちから一つ選び、記号で答えよ。

- ア 竹馬の友に飼われた犬がみすばらしい豊吉を見て胡散そうに耳を立てた姿を友に重ね、時間の経過を悔やむ気持ち。
イ 懐かしい竹馬の友がすぐ近くに豊吉が居ることに全く気付いてくれる気配がないことが情けなく寂しく思う気持ち。
ウ 竹馬の友との昔が思い出されるが、その竹馬の友にさえ会いにくいことができない自分をやりきれなく思う気持ち。
エ 飼われている犬を呼ぶ友の口笛が自分を呼んでいるように感じて、すぐにそこに行けない自分を悔しく思う気持ち。

問五 IV にあてはまる語句を、次のア～オのうちから一つ選び、記号で答えよ。

- | | | | | | | | | | |
|---|-------|---|-------|---|------|---|---------|---|--------|
| ア | 本当のわれ | イ | 現実のわれ | ウ | 昔のわれ | エ | これからのわれ | オ | 零落れたわれ |
|---|-------|---|-------|---|------|---|---------|---|--------|

問六 二重傍線部 a・b「なるほど、なるほど」の後には、それぞれどのような言葉が入ると考えられるか。その組み合わせとして最も適当なものを、あとのア～エのうちから一つ選び、記号で答えよ。

- | | | | | | |
|---|-------------|---|-------------|---|-------------|
| ① | 私の甥にあたる子だ | ② | 昔の自分によく似た子だ | ③ | 釣りのうまい少年だ |
| ④ | 確かに大きな魚だ | ⑤ | 我慢できない程度だ | ⑥ | 阿兄によく似た顔だ |
| ア | a ∥ ⑤、b ∥ ⑥ | イ | a ∥ ④、b ∥ ⑥ | ウ | a ∥ ④、b ∥ ① |
| | | エ | a ∥ ③、b ∥ ② | | |

問七 傍線部D「意味の深い画」とあるが、この表現の説明として最も適当なものを、次のア～エのうちから一つ選び、記号で答えよ。

ア 少年と出会った後に改めて故郷の景色を眺め、昔と変わらないその美しく穏やかな姿に感動している。
イ 少年たちの姿に昔の自分をみて、あの頃にもう一度戻った気持ちになつて改めて人生を見直している。
ウ 故郷は昔のままであり、今生き生きと遊ぶ少年の姿に、長い歳月を忘れて昔の自分の姿を重ねている。
エ 城山の石垣の崩れや秋の澄んだ空気、鮮やかな日の光に、魅力ある故郷に帰ったことを実感している。

問八 傍線部E「今までの長い間の辛苦艱難が皮のむけたように自分を離れた心地がした」とあるが、このような心地がした理由を端的に示している表現を、本文から十字程度で答えよ。

四

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

今は昔、(注1) 一条の摂政殿の住みたまひける桃園は、今の世尊寺なり。そこにて摂政、季の御読経行はれける時に、山・三井寺・奈良の **a** やむことなき (注2) 学生どもを撰びて請ぜられたりければ、皆参りたりけるに、**A** 夕座を待つほどに、僧ども居並みて、或は経を読み、或は物語などしてなむ居たりける。

寢殿の南面を御読経所に定めたりければ、その御読経所に居並みであるほどに、南面の山池などのいみじく面白きを見て、山階寺の僧中算がいはいく、①「あはれ、この殿の木立は **B** 異所には似ずかし」といひけるを、傍に木寺の基増といふ僧居て、これを聞くまに、②「奈良の法師こそ、なほ疎き者はあれ。物いひは賤しきものかな。木立とこそいへ、木立といふらむよな。後ろめたなきの言や」といひて、爪を(注3) はたはたとす。中算かくいはれて、③「悪しく申してけり。さらば御前をば、小寺の小僧とこそ申すべかりけれ」といひければ、ありとある僧ども、皆これを聞きて、声を放ちて **C** おびたたく笑ひけり。

その時に、摂政殿この笑ふ声を聞きたまひて、④「何事を笑ふぞ」と問はせたまひければ、僧どもありのままに申しければ、殿、「これは中算がかくいはむとて、基増が前にて **D** いひ出だしたることを、いかでか心得ずして、基増が案に落ちて、かくいはれたるこそ、**b** つたなけれ」と仰せたまひければ、僧どもいよいよ笑ひて、それより後、小寺の小僧といふ異名は付きたるなりけり。「**E** あぢきなく物咎めして、異名付きたる」とてなむ、基増悔しがりける。中算はやんことなき学生なりけるに、またかく物いひなむをかしかりけるとなむ、語り伝へたるとや。

(『今昔物語集』)

(注1) 一条の摂政殿 **||** 藤原伊尹 これただ

(注2) 学生 **||** 大寺で、学問修行をする僧

(注3) はたはたとす **||** パチパチとはじく

問一 二重傍線部 **a・b** の口語訳として正しいものを、次のア～エのうちからそれぞれ一つ選び、記号で答えよ。

a 「やむことなき」

ア 壮健な

イ 気丈夫な

ウ 優れた

エ ありとあらゆる

b 「つたなけれ」

ア みつともないことだ

イ めつたにないことだ

ウ 仕方のないことだ

エ かわいそうなことだ

問二 傍線部A「夕座を待つほどに」の「ほど」と、文脈上同じ意味合いで使われている例文を、次のア～エのうちから一つ選び、記号で答えよ。

ア 目のさめたらんほど、念仏したまへ。

イ まみのほど、髪のうちくしげに削がれたる末も

ウ 十一になり給へど、ほどより大きに、おとなしうきよらにて、

エ その山は、ここにたとへば、比叡の山を二十ばかり重ね上げたらむほどして、

問三 傍線部B・Eの解釈として正しいものを、次のア～エのうちからそれぞれ一つ選び、記号で答えよ。

B 「異所には似ずかし」

ア 他のどこにでもある平凡なものだ

イ 他の所とは違っていて奇妙に思える

ウ 庭の山池などとは趣が違っていい

エ 他の所とは比べものにならないすばらしさだ

E 「あぢきなく物咎めして」

ア 無風流な咎めだてをして

イ 退屈しのぎに物をけなして

ウ しなくてもよい咎めだてをして

エ つまらなくなるほど物をけなして

問四 傍線部C「おびたたく笑ひけり」とあるが、なぜこのような反応をしたのか。次のア～エのうちから最も適当なものを一つ選び、記号で答えよ。

ア 基増に「賤しきものかな」と言われた中算が、基増の方が賤しいということを言葉巧みに返したから。

イ 基増に「賤しきものかな」と言われた中算が、基増の名前こそ賤しいというべきものだと言いつ返したから。

ウ 基増の「木立きだちではなく木立きだちだ」という指摘を受けて、間違った言い方ではないということの中算が面白く言い訳したから。

エ 基増の「木立きだちではなく木立きだちだ」という指摘を受けて、それではあなたは「小寺こでらの小僧こぞうですなあ」と中算が切り返したから。

問五 傍線部D「いひ出だしたること」とあるが、具体的には、本文中の①～④のどの発言を指したもののか。①～④のうちから正しいものを選び、番号で答えよ。